（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	つなMAYO			
○保護者評価実施期間	令和　7　年　1　月　30　日		～	令和　7　年　2　月　15　日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	25	（回答者数）	20
○従業者評価実施期間	令和　7　年　1　月　30　日		～	令和　7　年　2　月　15　日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	5	（回答者数）	5
○事業者向け自己評価表作成日	令和　7　年　2　月　15　日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	◆活動スペースの広さ	宿題などお子様に集中する事必要な場合や製作活動・SSTなど座学を行う時には静かに過ごす1階ホールを使用している。また、粗大運動やおもいっきり体を動かす活動については、2階の広いスペースを使用している。 1階と2階ホールには個室対応（扉あり）する事が出来るように環境を整備している。	1階については更に集中力を高めるために、パーテーションを用いたり、個別対応するために1人用の机を用意する。 職員の配置や利用人数、生活レベルに応じて1階と2階に分けて支援を行っていく。
2	◆プログラム内容の充実について	製作などの活動では、お子様のレベルに応じて準備するものを変えたり、説明の仕方を変える工夫をしている。 集団活動では、お子様にお手本になってもらうなど、みんなの前で活躍できる場の提供をしている。 ご自宅ではなかなか経験できないプログラム（野菜の収穫やカブトムシ採集など）をテーマにプログラムの立案を行っている。	子供たちに季節感を感じられるような取り組みを増やしていく。 一度行ったプログラムについては、実施内容と反省点・改善点等を記録していき、ブラッシュアップして今後のプログラムの質の向上へ繋げていく。
3	◆職場の雰囲気 風通しが良い雰囲気の職場の雰囲気作り	ティール型組織を導入し、更にスーパービジョンや事例検討会を実施することで職員の支援についての悩みや困りごとの確認を行い、働きやすさを追求している。 お互いの強みを活かせるよう役割分担を行いながら、支援や日々の業務にあたっている。	コミュニケーションを大切にし、職員の強みを活かした支援ができるよう連携を図っていく。
4	◆幅広い年齢層の他児との関わり 小学1年生～高校1年生までのお子様が一緒に活動している	年齢の異なる他児と過ごすことで、日常生活に必要なスキル等を真似しながら習得したり、関わり方（上下関係）を学んだり出来るよう、他児との関わりを大切にしている。	事業所内だけではなく、他事業所や地域のお子様と関わることが出来る活動を立案・実施していく。 現代では不可避であるオンラインでの他児との交流・マナーのあり方を拡充していく。
5	◆多方面への送迎 学校（学童ホームを含む）やご自宅までの送迎の実施	保護者様のご要望に応えられるよう送迎時間の調整を行うことで、保護者様の負担軽減に繋げている。 定期的な面談や送迎時、公式LINEを活用し、要望を確認している。	保護者様のご要望に対応できるよう、都度職員間で話し合い調整を行っていく。 送迎車内においても、お子様からの些細な発信も見逃さないように配慮し、内容については職員間にて共有している。
6	◆情報の発信 SNS・公式LINEの活用	インスタグラム等のSNSで日々のプログラムや活動風景の発信を行っており、ご利用中の保護者様や外部の方へ支援内容が分かりやすい様に開示し、安心に繋げている。 保護者様との個別の繋がりで用いている公式LINEでは、お子様の表情まで画像や動画でお伝えるしているので、更に安心していただくことが出来ている。	ホームページにSNSをリンクさせることで、より見つけやすく、見やすくなるように工夫している。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	◆保護者様同士の関わり	保護者様やご兄弟が参加できるイベントが少ないこと。 保護者同士が顔を合わせる機会が少ないこと。	保護者同士の交流の場である『茶話会』の開催は行っているが、さまざまな理由により実際に参加される保護者様が少ないこと。開催のアナウンス時において、保護者様が楽しめるような企画や保護者様が安心して外出できるような環境を整えて行く。 保護者参観や茶話会を開催する機会を増やしていく。
2	◆日常生活レベルの幅広さ 小学1年生～高校1年生までのお子様が活動を行っている為、日常生活レベルが幅広い	年齢だけでなく、日常生活スキルの幅広いお子様に対して、個々に見合った内容の活動を提供する難しさがあること。	同じ内容の活動であっても、個々に応じた難易度の参加方法を考え、提供していく。 個々の強みや課題の把握をしていく。
3	◆介助（補助）のバランス	お子様に対して関わりが強い一方で、お子様の動きを予見して動いてしまい、過介助になってしまうことがあること。	研修や勉強会に参加する事で職員のスキルアップを図っていく。 日頃から職員間での情報共有を密に行うことで、お子様かの主体性を尊重した支援を行っていく。
4	◆地域の場の活用や地域住民（子ども）との関わり	土曜日や長期休暇には地域のイベントへの参加や公共施設、公園、店舗の利用等、地域との交流が図れているが、平日の支援では地域の場の活用や子ども達と交流する機会が提供できていないこと。	研修や勉強会に参加する事で職員のスキルアップを図っていく。 日頃から職員間での情報共有を密に行うことで、お子様かの主体性を尊重した支援を行っていく。